

▼フェノールスルホンフタレイン注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 フェノールスルホンフタレイン (U) phenolsulfonphthalein 【分類】 腎機能検査用薬

【単位】 ▼7.8mg/管 [0.6%, 1.3mL]

【用法】 排尿後、水300～500mLを飲ませ、30分後に注射液1mL (6mg) を肘静脈注又は筋注

【透析患者への投与方法】 注射後15, 30, 60および120分の4回採尿するが尿量が40mL以下と少ない場合には成績が不正確になる (1)

【保存期 CKD患者への投与方法】 Ccr10mL/min以上：減量の必要なし, Ccr<10mL/min：尿量が40mL以下と少ない場合には成績が不正確になる (5)

【特徴】 体内で分解されず腎からすべて排泄されるため腎機能を推定でき、15分値は腎血流量RPFとよく相関する。大部分近位尿細管から排泄されるので糸球体濾過値と比較することにより、腎盂腎炎等の尿細管障害の有無を知ることにもできる (大部分が近位尿細管から排泄されるため、糸球体濾過値が良好であるにもかかわらず本試験の成績が悪いときは腎盂腎炎等の尿細管障害が疑われる)。

【主な副作用・毒性】 発赤、そう痒感、顔面潮紅、胸内苦悶、血圧低下等の過敏症

【安全性に関する情報】 注入から検査終了まで、被検者に横臥又は坐位をとらせるなど安静にさせ観察を十分に行う (1)

【代謝】 ほとんど代謝されない (1) 注射量の約20%が肝で除去される (U)

【排泄】 尿中回収率85% [6%は糸球体ろ過, 94%は近位尿細管にて分泌] (1,U) 正常な腎機能では静注量の約25～45%は15分で、50～65%は30分で、65～80%は80分で、85%までは120分で排泄される。筋注時の排泄も遅れる (1hr後で40～50%、2hr後で60～75%)。胆汁からの排泄もあり (U) 【CL】 311mL/min (1)

【蛋白結合率】 80% (1) 75～80% (U)

【分布】 主に血漿中に存在 (1) 赤血球や脳内には移行しない (1)

【MW】 354.38

【透析性】 資料なし (1) 一部は透析性があると思われる (5)

【TDMのポイント】 TDMの対象にならない 【O/W係数】 資料なし (1)

【更新日】 20150919

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。